国文研ニュース

No.19
SPRING 2010

目次

メッセージ
法人化後第1期から第2期へ ................................. 今西祐一郎 1
国文学研究資料館とコロンビア大学の協力協定の意味 .......................... ハルオ・シラネ 2

研究ノート
国文学研究資料館蔵古筆手鑑2点の紹介 その1 .......................... 久保木秀夫 3
中世における古代改廃造理解～理想の住宅像と考証研究～ .......................... 赤澤真理 6

トピックス
日本文化とロン・バートのフォトバイオグラフィー .......................... ファビアン・アリバート・ナルス 9
公開開始 与謝野晶子の源氏物語箋原稿画像データベース .......................... 伊藤鉄也 10
研究集会「アーカイブス編成の理論と実践」の開催 .......................... 坂口賢宏 11
当館所蔵「春日懐紙」の重文指定について .............................. 12
平成22年度展示会・講演会等 ........................................ 13
平成22年度アーカイブスウェッジ（史料管理学研修会通算第56回）の開催 ........................................ 13
総研大阪文学研究専攻の近況 ........................................ 14
表紙紹介 .................................................. 14
法人化後第1期から第2期へ
今西 祐一郎（国文学研究資料館 館長）

国文学研究資料館の創立30周年記念の祝賀会が、松野館長時代に行われたのとは、ついこのあいだの如く気がしていまし
た。当時、館外に広がる何かの委員を引き受けていた私も、出
席した記憶がはっきりしているからです。しかし、それは平成14
年のことなのです。ということは、従来の平成24年には、もう
40周年を迎えということも。

しかし、10周年、20周年といった創立以来の自然的な時間サ
イクルとは別に、法人化以来は、一部6年をサイクルとする中間
計画・中期目標という時間が、大学共同利用機関法人人間文
化研究機関 国文学研究資料館の運営を支えています。

平成22年度に第2期を迎えるにあたり、評価委員会では
早から第2期中期計画・中期目標の策定に向けた方針を練り、
第2期目標の策定には、たとえば、次のような文言を盛り込みました。

研究の推進に際し、研究者コミュニティの意見を集積し、そ
れぞれの対象領域におけるナショナルセンターとして、共同
研究及び他機関と連携した共同研究を組織するための体
制を柔軟に整備する。

国文学研究資料館においては、共同研究を機能的に実施
するため、研究系を統合し研究組織の改編を行うほか、海外
研究者を共同研究委員会の外部委員に加えることによ
り、国際的な研究動向に対応した研究体制を強化する。

法人化を迎えた6年前から、国文学研究資料館は研究組織
を4研究系、すなわち文学研究系文学研究形成系
複合領域研究系 アーカイブス研究系に分かれ、系ごとに研究
統括の主導をおおいて、基幹研究、プロジェクト研究、共同研究
等を推進してきました。第1期の6年目を終えるに当たって、合計
13の研究プロジェクトは、それぞれ研究成果の刊行、発表等で
満足すべき結果をあげたと自負しています。と同時に、4研究系
の間取りシステムの問題点も徐々に明らかになってきました。

将来計画委員会では、はやくその点に目を向けて検討をかき
ね、第2期中期計画・中期目標の策定に当たっては、4研究系
の統合一本化をはかり、より柔軟な研究体制の構築を期することに
しました。

また、法人化以後、同じ人間文化研究機構の内機関との連
携という、以前にはなかった重要な役割が加わり、館内外の業務
の増大・多様化は著しく、その業務の多くを実質的に担う副館
長の役割は予想を超えるものがありました。

そこで、今回の組織改編に際し、副館長を一人増やし、企
画調整担当、研究担当の副館長二体制で館の運営に当たる
ことになりました。新たな研究組織、運営組織を図示すれば、次
のようにになります。

なお、4研究系の解散に伴い一人減った3人の主幹は、これ
までのような研究系にとらわれることなく、館長、副館長のもとで
柔軟な研究体制の構築と統括を分担します。

物事に定説ということはありません。第1期の実績と反省を踏
まえ、第2期に踏み出します。これまでに変わらず、館内外のご
支援とご鞭撻をお願い申し上げます。
国文学研究資料館とコロンビア大学の協力協定の意味

2009年の3月に国文学研究資料館とコロンビア大学は研究・教育の交流に関する協力協定を結びました。北アメリカの研究機関としての国文学研究資料館と公共の正式な協定を締結したことになります。コロンビア大学はドナルド・キーン教授とアンドロワード・サイクルスターフ教授をはじめとする、欧米における日本文学研究の先駆者がプログラムを構成、その後現在にいたるまで、アメリカ合衆国内外の各大学で文字学研究・教育活動に携わっている博士号取得者を数多く育成してきました。コロンビア大学は北アメリカにおける日本文学研究の拠点であり、また、モロッコ大学とドイツ芸術館、ニューヨーク公立図書館、パンクコレクション、ウェーバー・コレクションなど、海外の著者による総合、世界文学、版本などのコレクションが存在するニューヨークに位置していますので、多くの点で国文学研究資料館と同様の活動、特にニューヨーク公立図書館のスペシャリスト・コレクションに関する研究にとってはよいパートナーといえるでしょう。私たちはワークショップやシンポジウムの共催を計画していますが、私たちは国文学研究資料館とコロンビア大学のメンバーを連携させるばかりではなく、国際的活動を含めることによって日本や北アメリカ・ヨーロッパの大学や美術館の研究者の相互交流がさらに進めることになろうでしょう。研究の方法が大きく異なる日本と北アメリカ、特に若者に占める相互の成果をより広く伝えることもできるでしょう。

将来における共同研究の重要な基盤の一つは、それが学際的であり、文学研究者ばかりでなく、宗教史や美術史をはじめ、さまざまな領域の研究者たちも含まれるということだと思います。今日、アメリカ合衆国では、文学研究はテクスタリシス分析を始め、視覚文化、メディア、印刷文化、パフォーマンス、儀式に関する研究も含んだものへと広がっています。詩歌、散文、劇を中心とする十九世紀西洋の文学歴史の枠組みが広がり、ポピュラーカルチャーやマルチメディアなどの歴史的研究も研究対象として活用されてきています。また、私たちは、東アジアの「文」（人文学）という、より広い概念を活用化させたいと考えています。こうした基盤によって、今後の国文学研究資料館とコロンビア大学との研究・教育協定は、東洋の異なる領域の研究者たちを新たに結びつけることにもなるでしょう。

文学テクストやそれに関連するメディアは、物事がどのようにあったかを知るだけでなく、どのようにあるべきか、あるいはどのようにならなかつ、何に直面し何を選びやすくべきなのかにたどったことわざ、それを楽しみにいたした人々に語りかけてきたものだと思っております。文学がこれのようなもので、その結果は…」とでも言わんとするように、文学はよく仮定定法になっています。この意味で、わが国たちは文学を通じて人間や社会において実際は異なる可能性を試してみることができるのです。文学は、実在からの選択の方法、現実強化の手段、現実形成の手段、現実批判などとして機能してきました。私は国文学研究資料館とコロンビア大学との協定によって、日本文学が歴史的に果たしてきた文化的・社会的な諸機能をより深く理解できるような研究が進むことを期待しています。

ハルオ・シラネ コロンビア大学教授（日本文学・文化）
日本語での著書に「夢の乖離源氏物語の詩学」（中央公論社）、「芭蕉の風景、文化的記憶」（角川書店）、編著に「創造された古典：カノン形成、国民国家、日本文学」（新曜社、共編）、「講談源氏物語研究：海外における源氏物語」（あうま）、「近代する日本文学研究、カノン形成、ジェンダー、メディア」（勉誠出版）などがある。
研究ノート

国文学研究資料館蔵古筆手鑑 2点の紹介
その 1 (請求番号 R 3 - 27)

久保木 秀夫（鶴見大学専任講師 前国文学研究資料館助教）

2007年度から2008年度にかけて、国文学研究資料館に2点の古筆手鑑が収蔵された。これまでに収蔵もしくは寄託されてきた古筆関連資料の中に、古筆手鑑の実物は含まれていなかったので、立て続けに2点も所有できたのは、まことに慶ばしい限りである。うち2007年度購入の1点（ラ 3 - 27）については、先に国文研ニュースNo.13においてごく簡単な紹介したが、字数制限もあり、図版掲載できたのは断簡の断簡Gのみだった。あるいは国文研2009年度調査研究シンポジウム「王朝文学の流布と継承」のチラシ余白で、断簡Aを図版と共に紹介したこともあったが、配布先は限られていたので、周知され得なかったわけでもなかった。そこで2008年度購入の1点（ラ 99 - 136）と併せ、あらためて本稿において取り上げ、特に注目される断簡といくつかを紹介していくことにしたい。なお図版掲載を最優先とし、各断簡に関する記述は必要な最小限にとどめる。掲載は貼り付け、図版の都合上、本号（ラ 3 - 27）と次号（ラ 99 - 136）の2回に分けること、及び図版の縮小率が均一でないことをお許し願いたい。

古筆手鑑（ラ 3-27）36.1 × 24.0 cm
折巻 1帖 全12折 オモテ39葉 ウラ37葉

A古今集 檜札文 檜紙 25.2 × 16.1 cm
鎌倉時代中晩期

古筆学大成の「伝藤原家隆筆古今集切（三）」に掲載され、田中登氏「古今集の古今集切」（『古今和歌集研究集成』所収、2004年、風間書房）によって「異本を含んでいる点に注意」と指摘されている合計3葉の銘。断簡の鮮やかな注目される理由は次の2点。①1 - 2首（巻4・秋上・237 - 238）に続く3首目「みな人の…」（歌頭右脇に朱筆合点あり）を、妻利（つまり）によって知られる4首目「星る人の…」とは、数ある古今集伝本の中でも当該断簡のみが持つ異本歌であるらしいこと。この2首は大和物語153段における「佐嘉のみか」と「なるみかせ」の譜答歌だが、詞はまたそれとは異なる独自内容となっている。②裏2つめの4首目詞書「御返し」に「聖武天皇也」という注記があること。この歌の作者の「みかど」を聖武天皇に比定するのは、珍しい説のようである。

C未詳説話集 檜札文 檜紙 23.2 × 9.9 cm
鎌倉時代後期写

B未詳歌書 伝二条（京極）為兼筆 檜紙 24.4 × 15.1 cm
鎌倉時代末期写
まず歌を挙げ、次いでそれを証歌としている句（作者未詳）を紹介していく内容か。句の上句は、ある歌の上句で、あるは速歌のうちの1句か。速歌関係とすると、现存資料中にかなり古いのではなかったろうか。ツリは杉谷寿郎氏蔵古筆手鑑所収の1葉のみか。
「夢窓国師」が修行中、武蔵国の旅宿において「女人」と賛答歌を交わしたという話話を伝える。「我モケニ世サハ駆ロト雲フナカラ露ナラハコソ草ノ葉ニ居メ」（夢窓）「戦トモ終野辺二拾草ニ何トテ居ト雲フラン」（女人）というその賛答歌は、新出の夢窓伝承歌のようである。

D八雲御抄 極札欠 梓紙 22.7×14.6cm 鎌倉時代後期写か
巻1『七病』。揺れ未確認。

E伊勢物語 極札欠 梓紙 24.0×15.0cm 鎌倉時代前期写か
通行本の49～50段。2首目「鳥のこを…」の下句「いかたのまはひとこを」は、いわゆる塚飴本（伝応部郷局筆本を実質上の孤本とする）のみ有する独自の文を一貫とする。ただし塚飴本が直後に挿入する「さらつをけたてもとばはありぬといかたのまは人のこを」という1首（後人が古今集から摘んだかと推定されている）の場合は、当該箇所には見られない。あるいは当該箇所は、塚飴本の生産過程を物語る重要な資料となり得るか。もっとも「鳥のこを…」と「さらつをけたてもとばはありぬといかたのまは人のこを」との下句が同一である点、書き替の日目だった可能性もある。いずれにせよ命の学問が必要な課題。

F和歌初学抄 極札欠 梓紙 24.9×15.8cm 鎌倉時代前期写か
古筆学大成21『伝筆原学部和歌初学抄切』1巻の写入。伊勢物語の注釈書としての和歌を選集の本文は書陵部本と同平文庫本と同割別される。当該箇所の本文は書陵部本には一致、ただし小異も確認得る。

G賀茂成助集 極札欠 梓紙 19.3×14.0cm 室町時代前期写
賀茂成助集は平安時代後期成立の散佚私家集。これまでなかった1巻のみが知られていた伝後光院集新編の添付国文研ニュースNo13にも国版掲載。新編私家集大成にも収録済。

H和歌知音集 極札欠 梓紙 23.4×15.7cm 鎌倉時代後期写
古筆学大成23『伝筆原学部和歌知音集切』1巻の写入。伊勢物語の注釈書としての和歌を選集の本文は書陵部本と同平文庫本と同割別される。当該箇所の本文は書陵部本には一致、ただし小異も確認得る。

I新古今集 極札欠 梓紙 24.4×15.5cm 鎌倉時代中期写
巻5・秋下・161〜469。鶴のつもり新古今集の写本は比較的珍しいか。揺れ未確認。ちなみに伝法隆寺光経筆八坂切とは別種。
のいわゆる刀伊の入寇と、太宰大弐としてそれに立ち向かう道隆。4 男隆家の姿を描いた場面。ツレの存在を間かない稀観の1葉。

K 桜花集 極札欠 桃紙 26.0×9.9 cm 室町時代後期

桜花集は鎌倉時代末期成立の残り私撰集。数々の残業・断簡が伝わるうち、伝正応筆断簡のツレ。当該断簡も部分文について新編国歌大観を検すると、1首目の詞書・作者名と2首目の歌とが合わさって巻1・春・10として載っており、1首目の作者名「権中納言公明」は歌「霞さへ…」とが見出されないことが知られる。この「霞さへ…」の歌は碓氷に、元享四年正月清水社歌会・14番右で「藤原朝臣公明」によって詠まれているので、新編国歌大観春部の底本（昭和拾葉本、伝浄弁筆断簡を転写した由）における誤脱であると判断される。すなわち既存の本文の不備を補う1葉として、当該断簡は大変貴重ということになる。なお国文研ニュース第13号において、当該断簡を「南北朝期私撰集たる藤葉集」の1葉と紹介していたのは、稿者が記憶違いによるミスである。ここに訂正しておきたい。

L 源氏物語 極札欠 桃紙 21.3×14.6 cm 鎌倉時代後期

賢木巻。古筆学大成23「伝津守国冬筆源氏物語切」3葉のツレ。

※※※

以上、多くの極札を欠いており、名物切も皆無に等しく、合紙もくたばっている当該古筆手錦は、確かに体裁としては2級以下、と言うのが適当かもしれない。しかしその資料的な充実は、第1級とされている既知の古筆手錦に十分匹敵しうるであろう。それとしても全体80葉にも満たない中で、これだけの重要資料・稀観資料・名物切が含まれている古筆手錦というのは、なかなかお目にかなわないのではないか。国文研が収蔵するのに実は相応しい1点であった。
中近世における古代寝殿造理解
—理想の住宅像と考証研究—
赤澤 真理（日本学術振興会特別研究員 SPD・国文学研究資料館）

新しい
歴史的にみると、住宅の役割は住むことととまらず、居住者の
身分や権威、あるいは財力の証示にあった。
「源氏物語」の舞台である「寝殿造」の空間は、後の中
近世に降っても、理想的な住空間としてそのイメージが共有され
ていた。
17世紀前半に建てられた、京都の桂川治いに建つ桂離宮は、
八条宮智仁・智満親王が、『源氏物語』の世界を読み込むこと
で造営された別荘建築である。親王が月見台から月を覗き、詩
歌を詠んだ別荘であり、客人が訪れた際には、庭に点在する茶
屋で茶がふるまれ、桂川や園内の池での舟遊び、管弦が催され
た（図1）。

図1 桂離宮 月見台

18世紀後半には、朝廷儀式の再興を目指し、天皇の住まい
である内裏の儀式空間が平安時代の様相へ復古造営された。

図2 京都御所 宴宮殿

図3 寛政度内長清宮殿平面図
（18世紀後半の模倣）

図4 京都御所清涼殿

立開や構造には、近世の建築技術が用いられたが、考証を担
当した故実家・長谷川潤は、古代・中世の文献史料や絵画を
参考にし、平安時代の建築を復古を目指した（図2）。
近世の人々は、時の流れを前代の寝殿造をいかに理解し、ど
のような姿として共有したのか。私はこの点を、近世に制作され
た源氏物語絵などの王朝物語絵に示された住空間表現を通して
究明してきた。以下、これまでの研究を簡単にご紹介したい。

寝殿造の空間

「寝殿造」は、近世に成立した建築であり、天保13年（1842）
に会津藩の国学者であった沢田英与が著した最古の日本住宅
通史『家屋雑考』に初見する。現在では、階層により幅があり、
年代により大きく形態を変容させた平安時代貴族住宅を「寝殿
造」という一つの名称で定義づけることは、多くや限界が生じ
ていることも指摘されているが、ひとまず平安時代貴族住宅につ
いて「寝殿造」の呼称を使用する。

寝殿造の空間は、主となる母屋の前面に、廻りを巡り、さらに
手前に連なって四方に、固定的な間仕切りは少なく、瓦板や障風
で室内を仕切った（図3・図4）。

上流階級の住宅は、時代が異なるに従い、日常的な空間から、
建具で間仕切られようになり、母屋・廻りの構成が消失し、柱が
角柱になり、_default字体_角柱が柱で覆われるようになる。さらに、床・棚・書院・
帳合様を備えた座敷構造が成立し、書院造が完成した。現在の
和室の原型である。

その後、日常的な生活空間、遊興のための施設において、
書院造の空間に、座敷席を簡略化し、唐紙を貼った障子を用いるなどの自由な案を施した、数寄屋風書院造で登場し、内部空間の意匠が多様化していく（図5）。

源氏物語絵の変遷における住空間の変容

寝殿造の空間を理解するために、12世紀に制作された『源氏物語絵巻』（徳川美術館・五島美術館蔵）及び『年中行事絵巻』（旧中家蔵）は類稀にとりあげられる史料である。

徳川・五島本『源氏物語絵巻』に描かれた住空間をみると、屋根を省き、部屋全体を斜めから館殿の「吹抜け屋根」と称される手法によって描かれている。絵画や写真だけでなく、室内に居る登場人物の様子が一目で分かることもある。彼には、母屋の周延を1段低い階が設け、柱は丸柱、床板は板敷きに懟を置いた、寝殿造の様相が示されている。

その後、源氏物語絵は、12世紀だけではなく、19世紀まで描かれる。源氏物語絵の制作には、物語を基本に立ち、新たに図柄を創出する方法と、前時代に描かれた絵を踏襲し、それにアレンジを加え新たな制作する方法の二種類があったとするのが、近世に至る後者の方法が主要となる。

ここでは、源氏物語絵に描かれた建築空間に目をくわえると、「源氏物語」は古代の階級社会を主役としており、絵に表現される住宅は、時代が遡っても、古代の寝殿造の様相が描かれるはずである。17世紀に制作された源氏物語絵をみてみよう（図6）。

「若葉下」柏木邸で、柏木が女三の宮の形見として頂かた猫を愛玩する場面である。

床一面に蒿が敷かれ、男性（柏木）の背後には屏風を置き、柏木の居所と女房家の居所を仕切る障子は、金地に漢画風の様が描かれる。

古代寝殿造の空間は、床は板敷で、金碧の屏風が登場しておらず、箏音引の下地にはとて絵を描いた。近世源氏物語絵は、金碧の障壁画に敷き詰めた冊などの当時の上流住宅における様式表現を採用することによって、高貴な上流住宅を表現している。

さらに、17世紀半ばの源氏物語絵をみてみよう。「閨木」、光源氏が方丈で訪れた紀伊の守の邸で、光源氏が

飲待されている（図7）。ここでは、金碧の屏風が描かれず、室内は板敷で簡素な様相となり、庭の池や松橋を描きこんでいる。すなわち、当時の上流階級の宮風の家への憧れ、風流な庭を見ながら欲を詰み、こうした生活様態への憧れが投影されている。

源氏物語絵に描かれた住まいは、当初は古代寝殿造の様相を示していたもので、古代から中世、近世へと描かれる間に、実際の上流住宅が変化すると、人々の上流住宅に対する空間理想に変容が生じ、絵に選択された様相が変容する。近世源氏物語絵には、制作当時の人々が理想として、憧憬をこめて讃賞した上流住宅像が投影されていると考えられる。

#大奥祝祭と寛政度内裏復古造営

年代が遡り18世紀後半の源氏物語絵になると、古代中世の文献や絵画を参照することで、古代寝殿造への正確な復古を目指すようになる。

その画期となったのが、寛政度内裏復古造営である。現在も京都市として現存する、天皇の住まい（内裏）は、近世を通じて8度の造営を経て返還した。このうち7・8度目の寛政度・安政度の内裏においては、紫宸殿・清涼殿・文華殿などの儀式用の建築が平安時代の復古様式で建てられた。この際に考証を担当したのが、京都の公家・裏松尾である。

裏松尾は、尊王思想家との交流により、幕府に30年の篤居を命じられる（宝暦事件）、その間『大内裏図考証』（内裏に関する殿舎考証）『院宮及び私第図』（貴族邸宅に関する殿

図5 修学院離宮中御茶屋客殿

図6 "源氏物語図屏風"「若葉下」（国文学研究資料館蔵）

図7 "源氏物語絵巻「閨木」（茶道文化研究所旧館）
合考証）を編纂した。四国の邸宅に対する研究成果は、高い評価を得て、江戸に居住する絵師や有職故実家において参照された。具体的には、幕府御用絵師であった狩野晴川院宗信に引用され、後世の建築表現における源氏物語物語が形成されるとされた。また、四国の研究成果は、江戸に居住した学者に参考され、「源氏物語「源氏物語物語」（宮内庁所蔵）などの「源氏物語物語」収録文書に制作されるようになった。

■ 18世紀以前における寝殿造建筑 - 「十帖源氏」

近世において寝殿造建築形成には、長松関淳が移教研究を開始し、以来の時代に古代の寝殿造建築が広く共有されていたか、未だ不明な点が多いところである。

たとえば、野々市玉川（1595～1609）が記した「十帖源氏」に収録された、六条院の図をとりあげた。六条院は、「源氏物語」に登場する松源氏との妻を除き邸宅であり、春・夏・秋・冬の庭を設けた四間で構成され、相互が流連で繋がっていた。

六条院は、すでに「河海抄」などの中世の枕書に考証がなされているが、「十帖源氏」は六条院を模した比較的古い史料と位置づけられる。

たとえば、「源氏物語」「少女」において、六条院造建築の記述がある。辰巳町（東南）に源（源氏）、未明町（西南）に秋好中宮、北貴町（東北）に花散里、東明町（西北）に明石の御所の邸宅を配置したとある（図3）。

「十帖源氏」の図をみると、東南に「源氏」、西南に「秋好中宮」、西北に「明石上」あり、本文と一致している（図3）。しかし、「花散里」の邸宅位置は、西側に寄せられている。

花散里の邸宅が西側に配置された要因として、本文には、紫上・姫君・女三（宮）の住まいが描かれたためといえる。物語本文によれば、紫上・姫君・女三（宮）は源氏邸宅かは遠く離れた北側に配置されている。

図が推定される当時は近世であり、美術の邸宅は北側に配置され、すなわち近世における邸宅の通見認識（女性たちの住空間は北側にある）に基づき、源氏の邸とは別の北側に女性の邸宅を配置し、花散里の住まいが、西側に寄せられていたものと考えられる。

さらに、細部には考証の成果がみられる。秋好中宮の邸宅前に描かれる石橋と池は、「中宮の御所に、もはや山があり、植木・泉・池を乱した」という記述を、東側の馬場と池は、「北の東に_requestedな泉があり」「東面に馬場殿」という記述を基にしている。

以上のように、細部に考証がなされるが、平面図のプランに落とし込んだ時に矛盾が生じている。作図からは、今日理解される寝殿と対比的構成される寝殿造建築の規範が共有されていなかった点が指摘できる。
日本文化とロラン・バルトのフォトバイオグラフィー

私は、2007年9月よりケンブリッジ大学及びパリ第3大学の二つの修士課程でフランス近代文学を研究しております。私の研究対象は、Roland Barthes, Denis Roche 及び Annie Ernaux といった3人のフランス人作家によるフォトバイオグラフィー（フォトバイオグラフィー＜photobiography＞：自叙伝＜autobiography＞と写真＜photography＞を合成させた事語）で、それら作品中における写真の使用とそれらの効果について研究をおります。自叙伝、自覚芸術、文学理論に興味を持っております。このたび2009年9月1日から11月25日まで、英国芸術・人文リサーチ・カウンシル（AHRC）から日本に派遣された第一研究員の一員として、国文学研究資料館で研究させていただきました。

国文研での研究

国文研の皆様には温かく迎えられて頂き、心から感謝いたしております。研究環境も申し分なく、自分の研究目的を十分に果たすことができました。図書館では、書物に関する索引の見出し、バルトが独自の日本語を著した『表象の帝国』（1970年）で言及している俳句の原書（日本語）の見出しを含む、松尾芭蕉、与謝野晶子、正岡子規の俳句に関する書籍にありました。そして、こうした芸術、美術をバルトンか超自然したかに吸収し、理論化したのかに関して明らかにするため、作品を写真に捉えました。バルトンが実践した視覚芸術（水彩画、デッサン）が、日本伝統の書、及び視覚芸術の影響を多大に受けていたという事実を明らかにしたと考え合わせています。また、国文研の特別展で写真やイラストを目にすることはできても、今後の研究に大いにつながるものとなりました。

研究活動

国文研での研究期間中、博士論文の中で重要な要素（バルトのフォトバイオグラフィーに日本文化がいかに影響を受けたかについての考察）を書き終えることができたのが私の目標でした。フランスで極めて影響力のあった文学理論家、哲学者、作家であったバルトは、1966年から1967年までの間に日本に3度の滞在をしました。この経験から、「表象の帝国」を著しましたが、その著書の中で、バルトは見識された西洋世界から「かなた」にある日本に全く定義されなかったか、さらに、さまざまな側面から日本で、社会（食事、宗教、礼儀など）について書き終しました。バルトは、俳句には現代表現力が必要であり、同時に写真にもその力がありと主張しています。著し理由から、俳句は、バルト自身の写真が使用された自叙伝に大きな影響を与ええたのです。彼は、俳句、写真、及び彼の自伝的作品には、みな直に現実を説き力があると述べています。

2009年11月13日、国文研で「存在の表象性：ロラン・バルトとクリス・マーカー（マルケル）・におけるジャパン」というタイトルで研究発表会をさせていただきました。内容は、バルトの『表象の帝国』とマーカー（マルケル）（フランスの映画監督で後もまた日本に励みした人物である）のSunless (1982年)との比較考察でした。二人には、日本文化における表象に対して同じ方向性で取り組んだという点において、共通点が認められます。仮に、バルトとマーカー（マルケル）が日本の表象が意味するものを理解しなくても、それでもなお表象するものや形質を享受することはできます。この間、二人はそれぞれの作品において、論的で客観的な表象を文化的な意味から切り離して解釈しました。その結果、読者と観客は、表象そのものを内感的なものとして、そして「記号表現のなかに、＜優雅に＞（無標記で）服をすえた」芸術と文化的「アマチュア（愛好家）」が感情的に享受したもの、そして捉えることができるように導いていないのです。

公開開始 与謝野晶子の源氏譜自筆原稿画像データベース

伊藤鉄也（国文学研究資料館教授）

与謝野晶子が「源氏物語」の現代訳をした時の自筆原稿を、国文学研究資料館が画像データベースにしたことの意義について、掲載されました（2010年2月18日 木）『毎日新聞』大阪版社会面「図説版」）。

これは、2月19日から国文学研究資料館のホームページで公開された「近現代名著・近現代画報データベース」（以下HP）での公開である。

著者「源氏物語」の原稿用紙522枚。附属文献・著者記録の全文が公開される。書籍と表現がまったく違う、下書きを作っている。

市川文雄氏は「生きている作家の生が知られる。晶子の思想が懸けてきた」（資料館HP（http://www.nijil.ac.jp/））

【伊藤鉄也】

国文学研究資料館では、源氏物語千年紀にあたり、2008年10月、伊藤・長尾寺に所蔵されている与謝野晶子の源氏物語自筆原稿（「乙女」「雪」「東屋」）の画像データベースを開設しました。この開設の目的は、次世代の読者たちに、この時代を象徴する書籍の歴史的価値を伝えることを目的にしたものです。

この画像データベースでは、新たに市川市として、「藤原」「離席」「もがき」「重複」などの要素が使われている。藤原の自筆原稿（69枚）を参考にした画像データベースの内容を公開している。

公開直後の2月21日には、市川文雄氏に与謝野晶子自筆原稿に、「源氏物語」の図説版を制作するための準備が行われた。神野藤昭夫氏が講演会を行った。

神野藤昭夫氏の講演は、非常にわかりやすく、またたくさんの新見をいただきました。この講演は、図説版に晶子の思想を象徴するものを作ることを目指すものでした。
研究集会「アーカイブズ編成の理論と実践」の開催　坂口貴弘（国文学研究資料館前機関研究員）

年明け早々の平成22年1月9日（土）、公開研究集会「アーカイブズ編成の理論と実践—公文書館の現場からの提言—」が当館第1会議室にて開催された。

この研究集会は、当館の研究プロジェクト「アーカイブズ情報の資源化とネットワークの研究」（研究代表者：大友一雄教授、平成16年度～平成21年度）の主催によるものである。集会は、まず次の2本の報告がなされ、その後に参加者を交えての全体討論という流れで進められた。

「記録史料群の編成・構造化に関する理論から実践へ—近代県庁文書群の目録編成を題材に—」
柴田知彰氏（秋田県公文書館）
「沖縄県公文書館における公文書編成について」
大城博光氏（財）沖縄県文化振興会

アーカイブズ資料の編成は、目録作成等の前提として必要な実務的作業であるとともに、当該資料群に対する的確な理解・分析があって初めてなりたた成果である。報告者の柴田知彰氏は、各種のアーカイブズ目録編成事例の基盤にあるべき存在として、記録史料群の内在的秩序の構成と復元の理論を提起された。巧みな比喩を通じて、編成の進め方における論理的と統合的という発表であった。大城博光氏は沖縄県公文書館での実践の過程に基づき、公文書の編成は単純にその整理作業のためだけに必要なものではなく、評価選別やデータベースの構築といった公文書館業務全体にとっても効果的であると論じられた。いずれも、従来の研究よりも広い視野から編成論をとらえ直し、その進展の方向性を探ろうとする意欲的な報告といえる。

年間の土曜日にもかかわらず28名の方々にご参加いただき、にぎやかな中は活発な質疑や催し交わる研究会となった。今回の大会を反映して、国立公文書館や自治体公文書館からの参加も多く一方で、文系・理系の垣根を越えた多様な分野の研究者の方々にも講演に加わっていただることができた。

アーカイブズ学の特質を考えると、理論と実践、研究と現場の相互交流は欠かせない。当プロジェクトは平成16年の開始当初より、研究成果の普及と論説の深化を目指し、公開の研究会やワークショップを積極的に開催してきたが、今回はその紙を飾るように活すべき会とすることことができたと考えている。なお、開催にあたっては日本アーカイブズ学会からの支援をいただき、また、研究集会当時の資料は、本年2月に発行した当プロジェクトの研究成果報告書「アーカイブズ情報の資源化とネットワークの研究」に収録されている。関心をお持ちの方々もぜひご参照されたい。
当館所蔵「春日懐紙」の重文指定について

平成22年3月19日（金）に、当館が所蔵する次の懐紙原本が文化審議会における審議の結果、国の新らしい重要文化財に指定されるよう、文部科学大臣に答申されました。

■書写：鎌倉時代中期
■資料数：25枚
■請求記号：99－87－1～25
（うち、99－87－4、99－87－5は文化財指定外）

興福寺・春日社を中心とする南都（奈良）の僧侶・神宮の歌会で用いられた懐紙の原本です。古筆の名物として名高いもので、詠者は総共（7枚）・中臣祐定（6枚）・学詠（5枚）・明算（3枚）・素俊（2枚）で、残り2枚は懐紙ではなく書状です。

春日懐紙は、春日若宮社神主を務める千鳥家に伝えられていたとされていますが、のちに加賀前田家に所有することとなり、大正年間に東京に流出してしまいました。

和歌の研究者として有名な佐々木信信が研究していた段階で、関戸家蔵の29枚、松岡家蔵の43枚、大福家蔵の約50枚といったコレクションの存在が明らかにされているが、今日その多くは所在不明となっています。当館に所蔵される春日懐紙は、松岡家蔵の懐紙の一部と推定されています。

また紙絵には、詠者のひとりである祐定による「万葉集」の書写されており、これを春日本万葉集と呼んで珍重されています。寛元元年から寛元2年（1243年～1244年）の書写を伝える資料があります。各紙中央に折目があり、河岸に宿敵の痕があり、時に空振りの習田や稽古が見出せるのは、「万葉集」として装飾に使われていた頃の名残りと思われます。

この紙絵によって、当時南都で流行していた「万葉集」本文が知られることは重要です。ただ残念なことに後代には懐紙面の施事が尊重される傾向が強く、その逸見の殆どになるという理由で、紙絵は多く剥ぎ取られ、創り取られたりしてしまっています。当館の資料を活かしてその一部が読み取れる程度ですが、それでも貴重な資料と言えるでしょう。

※本資料は、平成22年4月27日（火）～5月9日（日）まで東京国立博物館本館特別第1・2室で展示されます。
※紙絵とは和紙の使用済みの面を装飾として、その裏面を利用して別の文書（古文書）が書かれた場合に、先に書かれた面の文書のこと。
### 平成22年度展示会・講演会等

当館では、平成22年度に次の催しを予定しています。

まず、展示では、4月15日より約二ヶ月間にわたって「和書のさまざま」を行います。これは（本）のさまざまな形態を体系的に示しながら、古典籍がどのように保存されてきたかを御覧いただく展示です。7月5日から約二ヶ月にかけては、国立民族学博物館で昨年に開催され好評を博した「チベット・ボン教の神がみ」を、人間文化研究機関の連携展示として実施いたします。さらに、10月4日からは、鉄心斎文庫が所蔵する短冊資料を、これまでに発表した研究の成果を踏まえ展示いたします。

講演会は、恒例となっている学界の大家による連講講座（5回）と、昨年に新設して評判のよかったサテライト講座を秋季に予定しています。夏休みには近隣の小学生を当館に招いて、国文学の面白さや当館の事業を分かりやすく紹介する「子ども見学デー」を開催します。

これらの催しについては、HPなどで随時ご案内いたしますので、要項に従いふるってご応募下さい。

<table>
<thead>
<tr>
<th>展示</th>
<th>通常展示「和書のさまざま－書舘学入門－」</th>
<th>4月15日（木）～6月18日（金）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>機構連携展示「チベット・ボン教の神がみ」</td>
<td>7月5日（月）～9月10日（金）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>通常展示「鉄心斎文庫短冊優品展」</td>
<td>10月4日（月）～11月12日（金）</td>
</tr>
<tr>
<td>講演</td>
<td>子ども見学デー</td>
<td>8月</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>連続講演</td>
<td>10月～12月</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>サテライト講座</td>
<td>11月</td>
</tr>
<tr>
<td>会等</td>
<td>国際日本文学研究集会</td>
<td>11月27日（土）～28日（日）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※今スケジュールは、平成22年4月1日時点のものとなります。

### 平成22年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会通算第56回）の開催

1. 趣旨
国文学研究資料館では、アーカイブズ（記録史料）の収集・整理・保存・利用に関する最新の専門的知識、及び技能の普及を目的として、アーカイブズ・カレッジを開催しています。

2. 期間
A. 長期コース（東京会場）国文学研究資料館 東京都立川市緑町10-3
   前期＝平成22年7月20日（火）～平成22年8月13日（金）19日間
   後期＝平成22年8月30日（月）～平成22年9月24日（金）18日間
B. 短期コース（名古屋会場）名古屋大学（東山キャンパス）名古屋市千種区千種1
   平成22年11月8日（月）～平成22年11月19日（金）11日間

3. 申込資格
次のいずれかに該当する方です。
(1) 文書館などの歴史資料保存利用機関をはじめとして、文書保存・大学・企業等の文書担当部局及び歴史資料館、又はアーカイブズを取り扱う必要のあるその他の機関に勤務し、アーカイブズの収集・整理・保存・利用等の業務に従事している者。
(2) 大学在学中又は大学卒業以上の学歴を有する人で、アーカイブズ学に強い関心を持つの。

4. 受講料
無料（ただし、テキスト代は受講者負担（500円程度））。

5. その他
申込書、及び詳細な情報等については当館Webページ（http://www.nijl.ac.jp/contents/events/index.html）をご覧いただくか、管理部総務課企画広報係（TEL.050-5533-2910）までご連絡下さい。
総研大日本文学研究専攻の近況

専攻長 中村康夫

学位授与者は今年は3人
3月24日に総合研究大学院大学業山キャンパスにおいて学位授与式が行われた。日本文学研究専攻で審査を受け授与された者は以下の3名である。これまで、今までに学位を授与されたのは8名になった。

[課程博士]
氏名 金時得
論文題目「異国合戦記の研究—朝鮮軍記物とその周辺」

氏名 一戸涉
論文題目上方和学研究

[論文博士]
氏名 石川芳
論文題目「江戸狂歌抄史の研究」

昨年12月に一次審査が行われ、今年1月に公開発表会と二次審査が行われて、昭和45年9月に合格と認められた。これは2月26日に教授会において承認され、正式に学位授与が決定された。

今回は新しくもすべて近世文学の研究者で占められた。近世文学研究の苦労は、その資料の量の多さ、領域の多様さ、それらを厳密に分析することの困難さなど、他の時代とは異なる要因があり、審査も慎重に進められた。しかし、上記3編はいずれもそれらの条件を否とせず、見事に乗り越えて学位論文に達成されていた。

論の高さよりも、資料を厳密に扱っていくその手法は、国文学研究資料館にとっては大変意味のあることであり、今後の研究者を大きく指導するものと思う。

研究者を目指すならば、今や博士の学位は必須となった。日本文学研究専攻は価値高い博士を輩出するべく、カリキュラムを整え、意欲ある新入生の入学を心からお待ちしている。

表紙紹介

「伊勢物語（いせものがたり）」断簡

当館所蔵『古筆手鏡』（ラ3ー27）1冊に所収される『伊勢物語』の古筆切れ一葉。
この AUTOMATION 1 時代前期の筆とされる。書写者などは不明であるが、いわゆる編集本の生成過程を物語る資料として貴重である。この古筆切れ資料、および所収する『古筆手鏡』については、P3ーP5に掲載する久保木秀夫氏の研究ノート「国文学研究資料館蔵古筆手鏡 2点の紹介」をご参照いただきたい。
通常展示 和書のさまざま 書誌学入門

本展示では、「本」のさまざまな形態を体系的に紹介しながら、日本の古典籍がどのように読み伝えられて来たのかをご覧いただきます。本展示が、書誌学の入門としてのみならず、和書の魅力を感得していただく好機となれば幸いです。

第一部 本を形づくるもの
A 装丁
B 書型
C 本の各部
D 料紙

第二部 さまざまな本の形
A 写本
B 版本
C 本以外の資料

開催期間：平成22年4月15日（木）～6月18日（金）
（期間中 入場無料、開室時間：午前10時～午後4時半、土曜・日曜・祝日休室）

閲覧室カレンダー 2010年4月～6月

4月

5月

6月

開館 9:00 ～ 18:00 請求受付 9:30 ～ 12:00 13:00 ～ 17:00 複写受付 9:30 ～ 16:00
ただし、土曜開館日は、開館 9:30 ～ 17:00、請求受付 9:30 ～ 12:00 13:00 ～ 16:00
複写受付 9:30 ～ 15:00

国文学研究資料館
〒190-0014 東京都立川市緑町10-3
Tel.050-5533-2910 Fax.042-526-8604

発行日 平成22年4月26日
編 集 国文学研究資料館広報出版室
印刷所 三越印刷株式会社
©人間文化研究機構国文学研究資料館